

# IPD 活動 Q&A 集（案）

Ver.1.0

2025 年 6 月 2 日

公益社団法人日本技術士会研修委員会  
IPD ワーキンググループ

## 目 次

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 . IPD 活動者に関する Q&A .....          | 1 |
| 2 . IPD 活動支援者に関する Q&A .....        | 2 |
| 3 . IPD 活動実践手順書に関する Q&A .....      | 4 |
| 4 . IPD ワーキンググループ（第四期）メンバー一覧 ..... | 5 |

2025 年 6 月 2 日

初期専門能力開発（Initial Professional Development、以下、IPD と略す）活動において、実際に活動しようとしたときに種々の疑問が生じ、なかなか行動に着手することが難しいことがある。

さらに、誰に相談したら良いかわからず、そのままなってしまうことがある。

本 Q&A 集(案)は、IPD 活動に関する多様な疑問に対して活動現場で役立つよう質問をまとめた。

今後も定期的に更新予定である。みなさまの活動が円滑に進むよう、ぜひご活用頂きたい。

## 1. IPD 活動者に関する Q&A

| No | 問い合わせ内容 (Q)                          | 回答内容 (A)                                                                                                       | 備考                          |
|----|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 1  | IPD への取組みは何に役立つか。                    | IPD は GA (Graduate Attributes) を習得した後に、専門職のエンジニア（技術士、一級建築士等）として備えるべき資質能力を初期的に開発する方法を獲得してグローバルな社会に対応できるように取り組む。 | 出典：<br>IPD 活動指針案<br>Ver.1.0 |
| 2  | 支援者が見つからない時は、どうすれば良いか。               | 大学の先生、職場の先輩、技術者のコミュニティ等で支援者になってくれる方を紹介してもらうと良い。                                                                |                             |
| 3  | IPD 活動時、支援者がいないまま活動しても良いか。           | 支援者がいる方が良いが、いないまま活動しても問題にならない。                                                                                 |                             |
| 4  | IPD 活動の開始方法が不明でわからない。                | IPD 活動は、いつでも開始可能である。自分で決めて開始すればよい。                                                                             |                             |
| 5  | IPD 活動の目的が良く分からない。                   | IPD 活動の目的は、自分が将来なりたい姿をイメージして決めると良い。<br>例えば、プロフェッショナルエンジニアとして社会市民の生活向上に貢献するなど。                                  |                             |
| 6  | 指導者と支援者の違いが良く分からない。                  | 指導者は組織等の目的をもって導く人、支援者は相手の状況に寄り添い補助してくれる人である。                                                                   |                             |
| 7  | IPD 活動と技術士第二次試験との関係性が良く分からない。        | 1 参照。                                                                                                          |                             |
| 8  | IPD 活動をやらなくとも技術士第二次試験は受けられるのか。       | IPD 活動をやらなくとも技術士第二次試験は受けられる。                                                                                   |                             |
| 9  | IPD 活動をやったら資質能力（コンピテンシー）を直ちに獲得できるのか。 | IPD 活動をやったから直ちに資質能力を獲得できるものではない。能力開発を継続することで獲得できる。                                                             |                             |
| 10 | IPD 活動者には誰でもなれるのか                    | 将来専門職のエンジニア（PE）になろうとしている人が対象である。                                                                               |                             |
| 11 | IPD 活動は首都圏以外の地域でもできるのか。              | 首都圏以外の地域でもできる。近年では、リモートにより、疑似対面による活動や支援が可能となっている。                                                              |                             |

| No | 問い合わせ内容 (Q)                | 回答内容 (A)                                      | 備考 |
|----|----------------------------|-----------------------------------------------|----|
| 12 | IPD 活動者と支援者の関係性は、どうあれば良いか。 | IPD 活動では活動者が自律的に動く前提であり、支援者は活動者からの依頼があってから動く。 |    |
| 13 | 支援依頼をするときは、何か決まった書式等があるのか。 | 無い。支援者になってほしい旨を伝えればよい。                        |    |
| 14 | 「支援者と繋がる方法」があるか。           | 無い。講演会や会合に出席することで支援者が見つけれられるかもしれない。           |    |
| 15 | IPD 活動の開始/終了のタイミングが分かりづらい。 | IPD 活動の開始/終了は、自分で決められる。                       |    |

## 2. IPD 活動支援者に関する Q&A

| No | 問い合わせ内容 (Q)                                                                                                    | 回答内容 (A)                                                                                                                        | 備考 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1  | 同業他社に所属する A さんから、業界の講演会で「〇〇さんのような技術士になりたい。」と支援を依頼された。業界としてはどの会社に所属していようが、技術者の質を向上することは必要である。A さんの支援者になることは可能か。 | 同業他社との関係性の考え方は、企業によって様々である。活動者と支援者双方が所属する組織の考え方に基づいて判断するのが現実的である。                                                               |    |
| 2  | 活動者が社内で上下関係（上司と部下）にある。その際の支援はどのようにすれば良いか。                                                                      | 指導者は、多くの場合組織的役割であり、活動者の上位の立場になる。一方、支援者は組織的役割ではないので、支援者と活動者は平等の立場にある。仮に、支援者が組織的な立場に固執し上下関係を主張したいなら、支援者を依頼されたときに断るのが望ましい。         |    |
| 3  | 支援の安定した質を維持するにはどうしたら良いか。                                                                                       | 支援者自身が、継続研鑽する（CPD 活動）。IPD 活動では、ワークショップでの質の確認や、これらのノウハウを蓄積している各コミュニティへの参加などが有効である。                                               |    |
| 4  | 活動者との間に良好な関係を築くにはどのようにしたら良いか。                                                                                  | 有意義な支援には、支援者と活動者間の「信頼関係」が必要不可欠である。その信頼関係を築くために、支援開始前に、お互いの専門や経歴を交換し、相手のことをよく理解する。その後は支援を進める中で、その理解を深めていく。（4.2.2 補足資料「支援のスキル」参照） |    |
| 5  | 支援記録では活動者を匿名にすべきか。                                                                                             | 第三者に開示する場合には匿名とすべきであり、CPD 登録の際にも活動者が特定されない                                                                                      |    |

| No | 問い合わせ内容 (Q)                                                                           | 回答内容 (A)                                                                                                                                                                                      | 備考 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
|    |                                                                                       | 配慮が望ましい。                                                                                                                                                                                      |    |
| 6  | 細部にこだわり過ぎる活動者への対応はどうしたら良いか。                                                           | 各人各様の多様性を辛抱強く見守ることが重要である。                                                                                                                                                                     |    |
| 7  | 打合せの時間はどの程度が適切か。                                                                      | 事前に活動者と取り決め、できるだけその時間内に収まるようにする。頻度やテーマにもよるが、一般的には、30分～1時間程度が適当である。資料は事前配布し予め目を通す等の工夫を行い、効率的に進める。                                                                                              |    |
| 8  | 活動者から「指導してほしい」、「正解を教えてほしい」等を要求された際の対応はどうしたら良いか。                                       | IPD 活動支援は指導とは異なること、多くの場合「正解」はないことを説明する。<br>なお、IPD 活動支援プロセスは一律ではないので、支援の進め方を押し付けずに、活動者が「どのように達成したいか(各人が求めるありたい姿)」そのために「何を支援して欲しいのか」を確認する。また、ありたい姿を明らかにして共通意識を持つようにする。そのためには円滑なコミュニケーションが重要である。 |    |
| 9  | 活動者の業務量が多く(活動者の業務がタイト)、精神的に追い詰められている様子が伺える。支援者としてどのように向き合ったらよいのか(支援者からアクションを起こして良いか)。 | 実業務と IPD 活動の両立や優先順位付けは活動者に委ねるべきである。また、実業務に対する直接のアドバイスは IPD 支援活動の範囲外である。その前提で、IPD 活動計画の見直しや中断などを薦めることになる。                                                                                      |    |
| 10 | 活動者が熱心で、土日構わず、活動の報告連絡・報告や質問がある。自身のプライベートな時間が持ちづらくなっている。どのように対応したら良いか。                 | 準備フェーズの中で、支援者が割ける支援の量・頻度等は活動者にも説明した方が良い。当初の予定に反して対応が困難になる場合には、対応可能な範囲を示す、あるいは支援者の追加を提案するなど、話し合うことが大切である。                                                                                      |    |
| 11 | 支援者として能力不足を感じるときがある。                                                                  | 支援者が能力不足を感じた場合、不足を感じる部分に堪能な支援者と協力して複数者での対応することが可能である。支援者は当該部分の能力向上に取り組むなど自身のスキルアップを図る。                                                                                                        |    |
| 12 | 自己評価だけではなく、支援の質を客観評価し、支援活動や自身の業務にフィードバックしたい。                                          | 支援者の先輩に問い合わせして客観評価を得る。または支援者間でコミュニケーションしてお互いを評価できるようにする。                                                                                                                                      |    |
| 13 | 支援の終了を判断する目安はどの                                                                       | 通常は支援者が終了を判断することではなく、                                                                                                                                                                         |    |

| No | 問い合わせ内容 (Q)                                                            | 回答内容 (A)                                                                                           | 備考 |
|----|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
|    | ような時か。                                                                 | 活動者が判断する。なお、活動者が、技術士や一級建築士などの資格取得を目的としている場合は、資格取得時点で IPD 支援は終了し CPD 活動へ移行するよう支援者を誘導する。             |    |
| 14 | 支援が長期になっているが、活動者が支援の継続を希望している。                                         | 支援者は活動者と相談のうえ、終了を宣言する。                                                                             |    |
| 15 | 活動者の能力が極めて高く、今後支援者として支援していく自信がない。今後の支援を断ることは可能か。                       | 活動者と支援者との信頼関係が揺らいでいるようであれば、その修復が必要である。複数人で支援を継続する (No.11) か、それが難しければ後任を紹介するなど誠意を持って支援の終了を宣言すべきである。 |    |
| 16 | 活動者から突然支援を断られた。毎月、レポート交換をするなど良好な関係を保っていただけに受け入れがたい。これに関して、理由を聞くことは可能か。 | 支援の開始と終了は活動者の意志を優先すべきであり、支援の終了は受け入れる。理由の入手は無理のない範囲で行う。                                             |    |
| 17 | IPD 活動者から支援の依頼があったが、その後、支援者に支援依頼の連絡がない場合はどうなるのか。                       | 特に問題無し、支援者は何もせず待っている。                                                                              |    |

### 3. IPD 活動実践手順書(案)に関する Q&A

| No | 問い合わせ内容 (Q)                                                              | 回答内容 (A)                                                                                                 | 備考                                                  |
|----|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 1  | IPD 活動で成果 (Outcomes) を出すことを求めているが、結果 (Outputs) と成果 (Outcomes) の違いがわからない。 | 結果 (Outputs) は、評価対象となる意図的な活動または努力の結果として生じる製品、資本財、およびサービス。<br>成果 (Outcomes) は、結果 (Outputs) の短期的および中期的な効果。 | 出典 :<br>OECD<br>2023<br>Glossary of<br>Key<br>Terms |
| 2  | 必ず R→P→D→C→R の順番にサイクルを回す必要があるか。                                          | R→P→D→C→R をベース (基盤) として回すことを推奨するが、業務や環境によって適切なサイクルにしても良いです。サイクルを回すことで能力が向上に繋がる。                          |                                                     |
| 3  | 活動手順 C での振り返り (Reflection) は、都度行うのではなく、定期的に行ってはダメか。                      | 振り返りは、定期的、例えば 1 年、あるいは半年に 1 回と決めて実施することは問題ない。                                                            |                                                     |
| 4  | R→P→D→C→R の R は、最初に実施する方が良いのか。                                           | R は、活動者が実現しようと思っている目的に対し、現在の資質能力との格差 (ギャップ)                                                              |                                                     |

| No | 問い合わせ内容 (Q)                                   | 回答内容 (A)                                                           | 備考 |
|----|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|----|
|    |                                               | プ)を知るために行う。早期に目的を実現できることが期待できるので、まず、Rを推奨する。                        |    |
| 5  | 各手順の技法 (Technique) に新たな技法を追加して良いか。            | 手順の技法に新たな技法を追加することはとても良い。                                          |    |
| 6  | IPD 活動手順 C の振り返り (Reflection) は、具体的に何を評価するのか。 | 手順 C の振り返り (Reflection) では、成果 (Outcome) の外面的な物だけでなく内面的なことについて評価する。 |    |
| 7  | 成果 (Outcome) の内面的なことには、どのような側面があるか。           | IPD では 15 の要素 (学識、技術的知識・・・リーダーシップなど) の側面について内面的なことを評価する            |    |

#### 4. IPD ワーキンググループ (第四期) メンバー一覧

| 氏 名                                        | 分類 <sup>※1</sup> | 所属・技術士登録部門       | 備 考 <sup>※2</sup> |
|--------------------------------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 池田 駿介*                                     | 継続               | 東京工業大学名誉教授       | 助言                |
| 中谷 多哉子*                                    | 継続               | 放送大学 教授          | 助言                |
| 石田 佳子**                                    | 新規               | 建設、衛生工学、総合技術監理   | 全体調整、支援 GB        |
| 阿部 修一                                      | 継続               | 電気電子             | 活動 GB             |
| 池田 紀子                                      | 継続               | 応用理学、総合技術監理      | 支援 GB             |
| 葛西 正浩                                      | 新規               | 機械               | 活動 GB             |
| 木村 礼夫                                      | 新規               | 建設、森林            | 支援 GB             |
| 小林 進                                       | 継続               | 情報工学、総合技術監理      | 支援 GB             |
| 小林 守                                       | 継続               | 経営工学、情報工学、総合技術監理 | 活動 GB             |
| 林 雅弘                                       | 継続               | 情報工学             | 支援 GB             |
| 松村 正明                                      | 継続               | 繊維               | 支援 GB             |
| 村上 令                                       | 新規               | 機械               | 活動 GB             |
| 村田 裕子                                      | 継続               | 水産、総合技術監理        | 活動 GB             |
| 横井 弘文                                      | 継続               | 電気電子             | 活動 GB             |
| *: 学識経験者, **: 代表 ※1 前期からの継続/新規加入の別 ※2 担当箇所 |                  |                  |                   |

以上